

第18回山形県障がい者スポーツ大会卓球競技実施要領

- 1 日 時 2019年5月25日(土)
 - 受付 9時15分(1階正面玄関ロビー)
 - 開始式 9時45分(サブアリーナ)
 - 競技開始 10時00分
 - 競技終了 15時00分
 - 表彰式 15時15分

- 2 会 場
山形県総合運動公園 サブアリーナ(一般卓球)・アリーナA1会議室(S T T)
天童市山王1-1 電話023-655-5900

- 3 主 管(運営協力)
 - 山形県卓球協会 山形県身体障害者卓球協会
 - 天童クラブ S T T審判団

- 4 競技規則
2019年度(公財)日本障がい者スポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」、日本卓球ルール及び大会申合せ事項による。

- 5 参加対象者
身体障がい者(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい)
知的障がい者
精神障がい者

- 6 競技方法
 - (1) 競技種目は、男女シングルス的一般卓球とサウンドテーブルテニス(S T T)とする。視覚障がい部門では、視力・視野を問わず、アイマスク装着の有無で、競技を区分する。アイマスクありはS T Tに、アイマスクなしは一般卓球に出場できる。
 - (2) 部門は、肢体不自由(上肢・下肢・体幹・車いす・脳原生麻痺)、聴覚障がい、視覚障がい(一般卓球・S T T)、知的障がい、精神障がいの10部門とする。
 - (3) 試合は、部門毎予選リーグ・決勝トーナメント方式とし、原則として同一部門の選手でブロックを構成するものとする。(各ブロック1位・2位が決勝トーナメントに進出する。)
 - (4) 出場選手の少ない部門については、他部門の選手と合わせてブロックを構成することがある。(1ブロック5名以内)
 - (5) 1ゲームの勝敗は、11ポイントを先取した競技者を勝ちとする。ただし、両競技者の得点が10ポイントに達した後は、2ポイントの差をつけた競技者を勝ちとする。

- (6) 1マッチは5ゲームからなり、3ゲームを先取した競技者を勝ちとする。
- (7) サービスは、得点の合計が2ポイント増すごとに交替する。また、双方の得点が10ポイントになったときは、順序を変えず1ポイントごとにサービスを交替する。促進ルールは適用しない。

7 一般卓球の競技規則等

- (1) 肢体不自由者および知的障がい者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手の手首より先）がコートに触れても失点としない。ただし、コートを支えて打ったり、テーブルを動かしてはならない。
- (2) サーブについて
 - ① サーバーは、フリーハンドの手のひらを開き平らにし、その上につかむことなく、自由に転がる状態でボールをのせ、静止させる。この状態からサービスは開始される。
 - ② 次にボールに回転を与えることなく、ボールがフリーハンドの手のひらから離れた後、打球される前になにもものにも触れずに落下するように、16cm以上ボールをほぼ垂直に投げ上げなければならない。
 - ③ サーバーは、ボールが落下する途中を打つものとし、そのボールが最初に自領コートに触れ、次いでネットアセンブリを越えるかまたはう回した後、レシーバーのコートに直接接触するように打球する
 - ④ 身体的理由により主審の承認を得て、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規定を緩和することができる。また、知的障がいについても、主審が対戦者の不利にならないと認めた場合、サービスの規定を緩和することができる。
- (3) 車いす使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際ボールが、①レシーバーのコートに触れた後ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、「レット」が宣告される前に打球した場合は、そのまま有効となる。
- (4) 知的障がい原因と認められる試合の中断があった場合、1つのマッチでの中断時間は最大10分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判、監督、介助者等が競技者に進行を促す言葉をかけたり競技者に触れることができる。

8 STTの競技規則等

- (1) STTに出場する選手はアイマスクを着用すること。
- (2) サービス
 - ① サーバーは主審が「プレー」の宣告をした後10秒以内に、サービスエリア内にボールを静止させ、主審がボールの静止を確認できるよう、完全にボールから手を離して「行きます」と声をかける。レシーバーは5秒以内に返事をし、そして、サーバーはレシーバーが「はい」と返事をした後、5秒以内にボールを打ち出さなければならない。

- ② サーブを出すときはラケットをボールから10 cm以上離し、ラケットの動きを止めなければならない。一連の動作中に10 cm未満でラケットを止めた場合はフォルトとなる。
- (3) 場内があまりにも騒々しい場合は、主審は一時競技を中止し、静かにさせた後競技を開始しなければならない。
- (4) 事故により一時的にプレーの続行が不能になった競技者に対し、いかなる場合においても5分を越えない最短時間の試合停止を認めることができる。

9 競技用具

ラケットは、日本卓球ルールに規定されたものを使用しなければならない。
(JTТАのマーク及び指定業者の刻印か、商標がなければならない)

10 服 装

競技にふさわしい服装で参加すること。背中には氏名、市町村名または団体名の入ったゼッケンを各自用意し着用すること。(縦15 cm、横25 cm程度／布の色は指定しない)

11 表 彰

部門毎とし1～3位まで表彰する。なお、3位決定戦は行わない。

12 出場申込み方法

卓球競技に出場を希望する者は、別紙出場申込書(様式1-4)により、2019年4月26日(金)までに郵送またはメールで申し込むこと。FAXでの申込みは一切受け付けない。